



# NETWORK VOL.134

# TERRA



「木が一本もなかった入植居住地に今では3メートル近いアボガドの木が」（大きさの対照に現地マネジャー柴田さんに立ってもらいました）

## ありがとう！ウラマン

南シヤン州のナウンシン・デモファームは地球市民の会のミャンマープロジェクトの中のひとつのプログラムで、土地を持たないが自立志向の高い貧困農民のための入植村を建設しようという内容です。そのコンセプトは「森と人がともに生きる村」です。2005年から開墾建設が始まり2005～6年に入植が行なわれました。開墾地は荒涼とした丘陵で、石灰岩層にある非常に痩せた土地です。十数年前にこの地域の自治組織が農地として使用し、失敗したこともある場所でした。非常に困難な場所での事業です。入植者はまさに『清水寺から飛び降りる』もしくは『ワラにもすがる』気持ちでこの新しい村にやってきたのでした。

4月3日に、9ヶ月ぶりにこの村を訪ねました。ほとんどまだらに灌木しかなかった丘に3年前に植林した苗木は、今では2メートルを超える木も散見できるようになり、昨年の雨季に木々が頑張ったんだ、とうれしい気持ちになりました。

農地を含めた入植者の生活はそれでも苦しい生活が続いています。農業で自立してもらうには未だ時間が必要です。特に昨年から主たる換金作物である

ニンニクの価格が暴落し、彼らにとって困窮の追い討ちになる状態が発生しました。そのような状態の入植者のウラマンに話を聞きました。

「生活の状態はどう？」

「厳しいけど、自分の土地のためだと思ったら頑張れるし、おとしより去年、去年より今年、確かに生活も土地も良くなっているよ。」

「この村を見て周りの人はどう言ってる？」

「こんな土地でやるのは止めたほうがいいよ、と言う人が半分ぐらいいるかな。」

「へえ～、それは辛いねえ。いつもなんて答えているの？」

ウラマンは予想に反して、明るく力強い声でこう答えました。

「大野さん、私はこう言ってるんです。『この土地は悪い。それは知っている。しかし、日本からのこの土地を良くする技術を習いながら、ポオー地域の中にたくさんある同じように悪い土地を良くするモデルになるためにやっている。この土地だから意味があるのだ。あと5年後に来て欲しい。素晴らしい土地になっているのを見られるはずだから』ってね。」

自立へ向けて誇りと自信に満ちて答えるウラマンに、私たちが始めたプロジェクトが村の人のものとなっていっていることを感じ取り、うれしい気持ちが増してきました。ありがとう！ウラマン。

## CONTENTS ■ 2009春

古賀武夫永久名誉会長の言葉を辿る  
「志と品格—光り輝いて生きる—(2)」

大野 博之 2

### ■地球市民の会

和顔愛語 佐藤 昭二 3

28周年記念事業  
『人間の持つべき文明2009』 4～5

ミャンマー通信 杉山 史恵・畑 恵子 6

地球環境基金イベント報告 7

アバンセイベント報告  
「世界—参加したい授業のお祭り」 8～9

### ■夢の学校をつくる会

夢の学校タマテ箱 10

夢の学校への思い 古賀 大之  
私の考える教育とは？ 小松原 修 11

### ■古賀英語・空手道場

恩師と自分 中溝 大介 12

### ■共同執筆

協力者一覧 13

5～7月のお知らせ  
スタッフのひとこと「長いお休み、何したい？」  
事務所住所 14



## 古賀武夫永久名誉会長の言葉を辿る

# 志と品格 - 光り輝いて生きる - (2) 手術～退院 1999年12月』

大野 博之

古賀武夫ブックレット第2号『志と品格 - 光り輝いて生きる - 』から今号も古賀先生の言葉を辿ることにします。

平成11年8月17日、肝臓の宣告がありました。そして手術があったのが同年10月4日で、その後の退院と回復期があり、復活の兆しを思わせる一文があります。今号はその時の心の移り変わりを探ってみます。

肝臓が発見され手術までになんと50日の間、古賀先生は入退院を繰り返します。病院はいち早い開腹摘除手術を勧めます。しかし、古賀先生は、手術は最後の手段としたいと考えます。手術をしない人を病院も入院させたままではいられませんし、とにかく病院にいたくないご本人ですから、一旦病院を出る、また入院する、また出る、を何回か繰り返したようです。(自主退院だといって笑いながら勝手に抜け出したこともありました。)

古賀先生の周辺の方々はたくさんの医療関係・宗教関係の書籍や代替療法の情報などを持ってお見舞いにやってきます。枕元には、健康になる、病気が治る、といわれている漢方薬や様々な飲み物や特別な水、サプリメントが、お店が開けるほど多種多様に置かれていました。多くの人が本当に心配していたのがわかります。時に祈祷師や霊能者も病室に訪れていました。心配した方がお連れになられていたのです。大学病院の一室で霊能者が一生懸命手かざし治療をしているシーンはなんと感概無量でしたし、それで治れば本当にいいのになあいつも思っていました。今では大学病院も良くそんなことを許していたな、とも思えます。

いろいろ手術に対して逡巡されていたのでしょうか。この頃は、なぜ自分に癌ができたのかを考えておられました。そして辿り着いた答えは、「自分に足りないことを教え、修行の機会を与えるものであった」ということのように思えます。これがこの病気を克服するための自分自身のモチベーションだった、と言い聞かせるように何度もブックレット内で語られています。

9月24日のネットワークテラ99年9月号の原稿では、「お詫び・感謝・恩返し」というサブタイトルで、世界中で起きる天変地異もご本人の病変も、生き方を間違えていること、もしくは、バランスを失っていることを知らせる天警だとして以下の通りお書きになられています。余談ですが、9月21日には台湾中央部を震源にした台湾大地震が発生し、台北市でのビル倒壊なども起こり、死者：2,415人、負傷者：11,306人という、台湾では20世紀最大の地震が生じました。古賀先生が病院からすぐに台湾支援の指示を出したのは当然のことで、事務局は支援物資と支援金を会員へのDMと新聞で募集をいたしました。

「第一に、大自然そして皆様からの有り余る恩恵をいただきながらその恩を忘れておりましたことに対してお詫びを申し上げます。二番目に、(中略)無数の人々から支えられながら生かされていることも充分に理解できました。改めまして、すべての人々、大自然の偉大な力に心から感謝いたします。」そして、この病から立ち直り、その後の生き方を宣言します。「今後とも、大自然の道を遡ることなく、身を慎み、みんなで心を合わせ、睦みしみ、さらに世のため人のために尽くさせていただきますよう、恐れながらお願い申し上げます。」

そして、そのような気持ちに至ったことから、「これまでやってきたこと、考えてきたことは、基本的に間違っていないことを確認」され、吹っ切られました。それは「人間はからだ、魂、心の三要素がバランスよく生長していなければならない」のだが、もともと病気や悪は存在しないと考える先生にとって、今度の病気は「生き方のバランスが崩れたことへの黄色信号で、有難い心の浄化作用」であり、「『生かされている』と思える自分に代わり全人的に成長をするための修行の機会」であったと手術を決心されます。

ただ手術だけでは治らないとも考えたようで「病気を呼び寄せるのも自分ならば、病気を治すのも自分です。常に大笑いし、有難いと喜んで、『明るく楽しく元気よく』『前向き、感謝、愚痴言わず』『つよくやさしく、やさしくつよく』です。」とも語られていました。

10月4日に肝臓の8分の1を切除する手術をし、なおも1ヶ月の入院が必要なところだったにもかかわらず、わずか15日で退院をしました。心の持ちようが治癒力を増したのか、持ち前の武道家としての体のつくりのためなのか、ただ単に病院に寝ているのがいやだという我が儘心なのか、そのすべてか、アッと驚く退院劇でした。そしてゆっくりと自宅療養をしながら徐々に空手や英語の授業を始め、年末には忘年会に出席できるようになりました。当然お酒は飲まれていませんでしたが。

その時、手術直後の霊的体験を語られていました。手術が終わり、観察室にいた間、全身麻酔からさめればかりという状態で不思議な状態になられたということです。体はベッドに横たわったまま動くこともできず、頭はものすごいスピードと強度と深さで思索し、感じ、感動していたそうです。その時の様子が次の通りです。「苦悶する身体に、突然、『神を信じるか!』という問いかけが身体の内から突きつけられ、たじろぎ躊躇する私の身体にばらばらに引き裂かれるほどの力が入り、一瞬、『信じる!』と爆発するような大声を出していました。それは、私の心全身が『感謝』の一点に集約した瞬間だったのだと思います。(中略)玉葱を一枚一枚剥いていくように(思索は深まっていき)私の頭は無意識に、『最後の最後に大事なものは一体何なんだ!』と狂おしく自問をしました。そして、出た答えが、『家族』でした。(中略)しばらくすると、私の体はベッドごと深々とした宇宙に飛び出し、きらめく星の世界を漂い、ふと気付くと体はベッドから離れ、吸い込まれるように一直線に宇宙の深遠に導かれ、濃紺の無限の宇宙の行く手には、幾重にも重なった輝く白色とオレンジ色の大きなまばゆい光の渦がある」ことを見つけたそうです。「幾重にも重なった輝く白色とオレンジ色の大きなまばゆい光の渦」が何だったのか、先生は文章では残していませんが、「それは『いのちの渦』であり大元の元だったと思う」と語られていました。大元の元とは『感謝』だということだったのかもかもしれません。また、『家族』だったのかもかもしれません。確かに、この病気のあと、古賀先生は家族の絆を深めていくこととなります。子どもとのわだかまりの融和などもこのあとのことでした。

次回、年を2000年とし、古賀先生がいつもの古賀武夫に復活していく模様をお伝えします。



# 和顔愛語

佐藤 昭二

## 前会長 故古賀武夫を偲んで

平成21年3月15日地球市民の会前会長、古賀武夫氏の一周忌の法要式典が行われた。遺影前で諸々の思いが走馬燈の様に流れていく。あのときあの様にすれば、この様にすれば、今頃もっと異なったところで彼と談笑していたのではないか・・・等と、思えば思うほどやりきれなさがこみあげてきた。何か手だてはなかったものか考えてしまう。

これも運命（さだめ）と思っではいるが、昔より「運命は外から来るものでなく、自分自身の言行より来る」と、云われている。自分自身の言行の本質にある“心の在り方”が自分からの運命を決める、とすることになる。何を意識し、何を思い、何を願うか、自己変革は「意識の変革」から始まる。意識が変わるところから、全てが変わっていく。ことに大切なことは「学ぶ姿勢」であろう。この姿勢より謙虚さが保たれ、マイナス的な共鳴現象が起きにくくなる。逆に、この姿勢を失ったとき、人は傲慢になりバランスを失い、判断を誤る。これはあくまでも自然の法則であり、人間の作った法律ではない。故古賀前会長も、この法則に添わざるところがあった事は否めない。病に冒された時、私達は病を治そうとするは、人情として仕方のないことでもあるが、“その病を以て人間を治せば、病は必ず消える”という次元に立つ事が最も大事な事であり、故人への最大の供養である。霊界に於ける前会長の本当の働きが始まっている。いつまでも学ぶ姿勢を大切にしたいものだ。

*Syoji Sato*



## 25周年記念事業『人間の持つべき文明2009』報告 ～地球市民の会の新たなる10年のための指針を宣言～

二〇〇九年二月八日曜日、佐賀市の「ホテルニューオータニ佐賀」におきまして、二十五周年記念事業を開催いたしました。その目的は、昨年三月に亡くなった古賀武夫氏（地球市民の会前会長・現永久名誉会長）より思想を残された者たちで、新たに実践する方向性である「人間の持つべき文明二〇〇九」を宣言することでした。

当日ご参加いただいた数は一七〇名。その多くが会員でした。当日は当会顧問の上甲晃氏（志ネットワーク代表）による基調講演「二十一世紀はいのちの時代」で多くの会員の感動を呼び、また、「人間の持つべき文明」を今、改めて考える」というシンポジウムでは、パネリストとして、当会名誉会長・古川康佐賀県知事、上甲晃氏、当会顧問・マリ・クリステイヌ氏、当会会長・佐藤昭二氏にご登壇頂き、当会副会長の山口久臣氏のコーディネートで素晴らしいディスカッションが飛び出しました。

その模様をエッセンスの言葉だけ抄録します。近日、ホームページで録音から起こしたエッセンスを詳しく掲載した文書を公開します。

佐藤会長の挨拶からはじまりました。

### 開会のごあいさつ

昨今はいよいよ収奪型資本社会が終焉を迎えようとしている。それに代わる新しい価値観として我々は循環型資本社会を提唱してきた。その社会で共生していくために何を中心におくかという点で我々は「農」に行き着いた。それを考えていく勉強会が今回のイベントの趣旨であります。

古賀前会長の亡くなる一ヶ月前のビデオレターの中から編集したものを上映しました。

### 古賀武夫ラストメッセージ 〜感謝と恩返し〜

地球市民の会はボランティア団体や国際協力団体、地域づくり団体などといわれているが、私は「世直し団体」だと思っている。それは、私たち自身が「幸せだなあ、生きてて

良かったなあ」と思え、恨みを持たずどんなことにも感謝できる人間になるための団体だからだ。みんながそのような人になったなら、この世から戦争や争いはなくなり、平和となえる必要もなくなる、きっと素晴らしい世の中が現われ、地球市民の会がいらなくなる。それがこの会の目的だ。

修身政治家国平天下という言葉がある。世の中が平和であるためには、個々人がその人間性を熟成させていくことにそのはじめがあるということだ。わが身を修めていこうという姿こそ、この世に「いのち」をいただいた私たちの最大の恩返しだと思う。私は、そのような人が集う場所が地球市民の会であると思っている。

基調講演は素晴らしい講演となりました。

### 上甲 晃 先生 講演 「二十一世紀は『いのち』の時代」

民族は次の三つを教えられなければ滅んでいくといわれているものがある。それは、日本の教育では学校で教えてこられなかったことだ。

一番目は民族として誇りを持てるような歴史。われわれは素晴らしいのだ、と思わせることのできる歴史。わが国では歴史といえは受験歴史である。歴史の背景や民族性など歴史観を教えるのではなく、受験に出るただ記号としての無味乾燥の事実として教える。興味や共感を覚えるはずはない。そしてただ一方的に自分のエゴのために非人道的行為によって戦争を仕掛けたという局部に偏った歴史教育。「お前の祖先は悪いことをしたんだ」とだけ教えられて、素直に育つとは思えないような歴史。

二番目は「道徳」、つまり人の道だ。私が学校に通っている頃は道徳を教えるという反動教育だと大騒ぎになっていた。太平洋戦争に導いたものがあたかも、日本人としての伝統的な価値観や生き方の責任であると全てを否定した。わが国では道徳の時間は他の授業の補助時間のように使われ、重視されてこなかった。

三番目は宗教教育。人間を超える偉大な存在に対する畏敬の念を持てるような信仰心のことだ。これも、戦前の政治的背景から形成された一時的な国家神道がすべての日本の宗

教であるかのごとく否定し、宗教心の本質的な部分まで否定してしまつた。そして、宗教観や信仰について学校で語られるとき、教育の宗教の不可侵を楯に全否定してきたのがわが国の教育だつた。

さて、この三つを教えなければどうなるのか。それは、自分さえ良ければよい、目先の利益だけが大きくなればよい、と考える人間が生まれるのだ。そしてそのような人ばかりが成長した国が減んでいくことの説明は要らない。今、そういう教育を受けた人が国を動かしている。考えれば、私を含め、戦後教育を受けた老人が日本の一番の問題になつていくという気がして、自省の念がある。その罪滅ぼしというわけではないが、この先の日本を導く高邁なる精神を持った青年を育てるということをライフワークとして、「青年塾」を全国で展開している。戦後教育で精神を骨抜きにされたならば、取り戻してやるうじやないかという活動だ。

人間力という言葉があるが、これは自分の魅力を高める努力ができる力のことだと考えている。どんなに素晴らしいことをしても、魅力のない人には同意や賛同を得ることはできない。ではどんな人が魅力のある人か。簡単である。その逆を考えればよい。どんな人がみんなに嫌われるか。それは、いつも自分のことだけを考えている人だ。いつも、何をあいても、まず先にみんなのことを考えている人が魅力のある人なのだ。だから、魅力ある人間になるためには、「みんなのために」を本気で考え、惜しげもなく自分の力を差し出し、行動できる人になろうということだ。「ほおっておけない」とすぐに行動できる力を持った若者を育てたい。

私たちは生まれてくるとき、日時、場所など自分で選んで生まれてくることはできない不自由なものだ。しかし、その代わりに無料でもらつたものだ。いのちもそのいのちを入れる入れ物の体も、そのいのちを存するための空気・水・太陽そして自然の食べ物、全て無料なのだ。そのことを考えるや自然に「有難いなあ」と感じてしまふ。生きていくと思つていたが、これは生かされているんだなあ、と感謝の気持ちが出てくる。その感謝の気持ち、これは恩返しをしなければならぬ、という考えになる。われわれ日本人は遠い昔からそのことをずっと考えてきた。人間の根本の魅力は「みんなのため」を考



地球市民の会25周年記念シンポジウム  
人間の持つべき文明2009

①②上甲先生講演会「21世紀はいのちの時代」

③パネルディスカッション 手前より、マリさん、上甲先生、古川名誉会長、佐藤会長、山口副会長

④パネルディスカッション 右より、マリさん、上甲先生、古川名誉会長、佐藤会長

⑤懇親会 乾杯 当会評議員 中尾佐賀新聞社取締役社長

⑥懇親会 乾杯 当会評議員 中尾佐賀新聞社取締役社長

えて行動できる心。その心は特段に新しく求めなくても私たちの間に伝統的にもとあつたもので、これを甦らせることが二十一世紀を拓いていく人類の英知ではないかと考えている。「自分のために」だけを追い求めることは滅びへの道である。松下幸之助さんも「どんな困ったことがあっても、世間の困るようなことだけはしたらかんで」と口を酸っぱくして言っていた。困ったことを突破するのは困り抜いて困った末に見えてくるもので、安易に自己保身すると後で手痛いしつべ返しが来るという教えだった。「行き詰るといふのは目の利益、自分さえ良ければいい」と考えたときに起こるものや。なんぞか判るか?」とも幸之助さんはいつも尋ねていた。答えは「それが真理に反しているからや」ということだった。「人間はな、過去現在未来の大きな真理の流れの中で生きている。それは人間のつながりの中で生きているということや。それなのに、自分さえよければいいと言ふ考え方は真理から反しているから滅ぶのは当たり前や」真理は平凡の中にあり、という言葉があるが、平凡なことをそこまでやるか、というレベルまで行くとそれは人の心を動かす。それは地味な作業だし、多くは「どうせ私一人じゃ、社会は変わらないよ」と思わせるようなこともかもしれない。それでは無力感に襲われることだらう。しかしそこを、「せめて私くらいは」と考える。誰もしなくてもせめて私くらいはみんなのために一歩前へ出ていこう、と行動する。そうすると、誰かがこの地区に、この地域にこんな人がいたね、こんな人がいて良かったねと言われるようになる。こういうことになれば、その地区その地域に救いがあることになる。「せめて私くらいはみんなのために一歩前へ」と思える人がこれからの世界を救う人なのだと思う。

## 人間の持つべき文明2009 シンポジウム

十六年前一九九二年に当時地球市民の会副会長であった故古賀武夫が主導しシンポジウム「人間の持つべき文明」が開催され、同年リオデジャネイロで開催された「環境と開発に関する国連会議」(地球サミット)のNGO会議に対しTERRAアピールとして地球市民の会から『人間の持つべき文明』が提唱

されました。これは、「地球市民運動」を実践するための指針でした。上甲先生の講演にも随所にこれにかかわるご意見が見られ、このアピール自体に今も遜色はないと考えられます。であるならば、二十五周年を迎える地球市民の会はより具体的にどこへ向かえばいいのか、ディスカッションを行いました。パネルディスカッションのゲストパネラーは上甲晃氏、マリ・クリスティーン又氏、古川康当名誉会長、佐藤昭二当会会長、そしてコーディネーターは山口久臣当会副会長でした。それぞれの素晴らしいお話から一部抜粋します。

上甲さん  
JAなどで講演をすることがあるのだが、いつも志の話をします。農業で稼ぐと考えるから、どうすれば儲かるかということに意識がいく。それでは志も低く仕事に誇りがもてないし割が合わない仕事だと思ってしまうところ。国民の命を預かっている仕事だと思える。使命感が沸き、それが志となっていく。そこが第一次産業の素晴らしさだ。第一次産業とは第一次的に国民の「いのち」を預かる仕事なのだ。農家は伝えている。電気機器や車が無くても経済は回る。いのちは困らない。しかし、農作物がなければいのちが困るのだ。第一次産業こそが大切にされなければならぬ産業である。なので、地球市民の会も農に携わるのならば志を持って行くべきだらう。

マリさん  
テラアピール二〇〇九の提言は「農」で纏め上げているが、「多様性(Diversity)」を入れてもらいたい。やはり日本人はまだ、人種民族の違いによる多様に適応しきれていない部分があつて差別もある。女性、子供、弱者という十分な権利を認められていない人の問題もある。しかし、農を行う土地は差別がなく、多様に富んでいる。その部分を考えてほしい。

古川名誉会長  
正直者がバカを見るという言葉が有り、みんなどこかでそれを感じているのが今の社会だと思ふ。しかし、それはスパンを短く見ているからで、ブータンの人は今生の善行は来世とかもつと先に帰ってくると思つているの

で、見返りを求めない。上甲さんの話をお伺いして思い出した話だ。さて、現在、命にかかわるものが市場原理の中で投機の対象となつていたりするが、それは間違つていて、ではないかという機運が世界中で起こりつつあると思つている。いい事と悪い事などの線引きが明確に出てきている。とにかく、経済では走れ走れと突き進んだ社会だけれども、「ほどほど」が求められるときではないか。人間も走り続けると疲れて止まってしまうが、歩き続けることはできる。それが「ほどほど」なのではないか。なので、われわれは走るのをやめて歩いていこうよ、ということを宣言しているのがTERRAアピールだと思つた。

佐藤会長  
マリさんのご意見をお伺いして思つたのは、みんな百姓に戻ればよい、ということだと思つた。百姓とは百の職を持つ人という意味だ。つまり自分の生活にかかわることは基本的にすべて自分ででき、あまつたものを売りにいく。一年間かけてたまつたものを農閑期の秋に町まで背負つて持つて行く。「秋に担う」が「あきない」の語源だとすれば、循環型や自分自給率というのは百姓に戻るということではないだろうか。もしくはそのような気持ちを持つて生きてゆけばもっと豊かになつていくのではないかと思つている。

山口副会長  
循環型共生社会とは小規模分散であるときに実現可能であり、地域でのコミュニティ経済のありようが論議されている。

同封の「TERRAアピール二〇〇九」も御覧ください。地球市民の会の中期経営指針のようなものです。

上甲先生の基調講演会、五人によるパネルディスカッションの素晴らしい話がよくわかる本編はホームページ上でアップしています。ご希望の方にはEメールでデータをお送りします。office@terra-netまで一報ください。印刷物が必要な場合は電話かファックスでご請求ください。無料でお送りします。また、DVDを実費でお分けしています。上甲先生講演(一〇〇〇円+送料)、講演+パネルディスカッション(三〇〇〇円+送料)です。

# パゴダの国から ミャンマー通信

皆様、ミンガラバー！ネイカウインエラー？（こんにちは。ご機嫌いかがですか？）2007年8月にミャンマーに赴任してから瞬く間に一年半以上が経ちました。わたくし杉山は、2009年3月をもちまして地球市民の会を離職することになりました。お世話になった皆様、地球市民の会を支えて下さっている皆様、本当にありがとうございました。

そこで、私からお送りする最後のミャンマー通信は、やっぱり食の話題です！（^▽^）私とミャンマーの縁はそろそろ10年近くになりますが、当初は驚きの連続でした。

ある日、友人に夕食に招待され一般家庭料理の定番であるヒヨコマメ料理をご馳走になったのですが、これがまた美味で、褒めちぎってその翌日もご招待をうけることに成功！早めにお邪魔しキッチン覗いたのですが、もう、肝がつぶれましたー。“豆と言えば煮物”という思い込みでいたものが、実はヒヨコマメの“油煮”だったのです！中華鍋半分まで満々と注がれた油の中に豆を投入し、グツグツと煮込むことしばし・・・少しずつ油を含み豆が柔らかくふっくら煮えて来て、油がなくなったところで完成。美味しいのは分かっているけれど、その晩は箸が進みませんでした・・・ゴメンナサイ。

そんな衝撃から日も置かず、また、すごいものを見てしまいました。当時一緒に暮らしていたミャンマー人の女の子がなんと、ご飯に油をたっぷりとかけてムシャムシャ食べている（すすっている？）のです！！ビックリしている私に、訪日経験のある彼女は「日本人のお茶漬けと同じよ！」と・・・。妙に納得してしまいました。



豆や野菜がたっぷりミャンマーご飯！

ミャンマー料理の基本は油。油たっぷりがおいしさの秘訣なわけです。私なりに理由を考えますと、ふたつ思いつきます。まずは、体力を補うため。やはり熱帯の国では体力消耗が激しいので油がエネルギー補給に欠かせないのではないのでしょうか。二つ目の理由は腐敗防止。料理が油で覆われていると腐りにくいので、暑さと湿気で腐敗が容易なミャンマーならではの知恵ではないのでしょうか。

では、ミャンマーと我が日本の明るい未来を祈って乾杯！

2009年3月



長崎県の会員さんから  
手編みのマフラーをもらって  
ご満悦な杉山さん。

杉山 史恵

## ミャンマー担当のつ・ば・や・き。



こういう笑顔に出会えたのも  
私の財産です。

みなさま、こんにちは！国内事務局のミャンマー担当・畑です。私は今年1～2月にかけて、3週間ミャンマーへ行っておりまして。目的は、現在のTPAのプロジェクトがうまく進んでいるか、ローカルスタッフは成長しているか、今後どのような活動が必要とされているか、等々を調査することの他に、私にとっても一つ重要な目的がありました。それは、現地の日本人、ミャンマー人スタッフがいつもどのように仕事をし、コミュニケーションをし、協力し合っているかを実感することでした。普段からEメール等で連絡をとり合っていますが、やはり、距離は感じるものです。物事や人柄、考えを知るにはFace to Faceが一番です。私は3週間の中で、18名のローカルスタッフ全員の顔と名前を覚え、多くの村人と接し、一緒に食事をし、会話できたことがとても嬉しかったです。こういう目に見えない成果は、自分にとっても大きな財産になると感じています。

どんなにインターネットや通信網が発達しても、Face to Faceに勝るコミュニケーション法はないのではないのでしょうか。

（畑 恵子）

# 『組織力アップで地域をひらく！』 ～資金調達と協働を身に付ける～ 地球市民の会が地球環境基金より委託を受け実施

会場満員大感謝！



平成21年1月23日（金）・24日（土）の2日間、佐賀県青年会館にて、独立行政法人環境再生保全機構の地球環境基金の委託により、環境分野で活動するNGOの活動発展のための組織運営講座を実施しました。九州・沖縄ブロックでの競争入札で当会が提案したものが採択となりました。

今回、私たちが提案したテーマは「資金調達と協働」。組織を強化し、より良い活動を行うためには、なくてはならないのが「資金」です。しかし、どの団体もそれが一番の頭痛の種となっています。そこで、現在NGO/NPOの「資金調達」の一人者である鵜尾雅隆氏をメイン講師として佐賀にお招きし2日間のセミナーを実施しました。鵜尾氏は日本に寄付文化を創出するという大きな目標を達成すべく、今年2月にファンドレイジング協会（ファンドレイジングとは資金調達という意味）を設立した方です。

また、協働を語るためにビッグなゲストもお呼び致しました。総務省から大臣官房企画課副課長補佐・重徳氏、佐賀県庁から県民協働課副課長・岩永氏、トヨタ自動車㈱から社会貢献推進部課長・鈴木氏、釣具のポイントから社長室長・橋本氏と言う面々です。行政との協働、大手企業との協働といっても、何をどうすれば良いのかわからない状態なので行政側と企業側の当事者に佐賀にお来し頂き、本音をお聴きし、赤裸々な質問をぶつけました。

2日間に参加したのはのべ27名でした。本気で組織を何とかしたい、資金調達・協働に活路を広げたいという方が集まり非常に高いレベルのセミナーになりました。これらの方とノウハウを分かち合えたことは、当会にとっても大きな意味を持つこととなりました。今後とも九州のNGO/NPOが共に社会を構成する力強いセクターとして成長していけるように頑張っていきたいと願っています。

おもな内容は、

- ① NPOと社会とのコミュニケーション戦略と経営資源の獲得についての講義
- ② NPOの経営資源獲得力（特に資金面）向上に向けたスキルアップワークショップ
- ③ 地球市民の会の協働事業のケーススタディ及び参加者からの体験共有セッション
- ④ 環境NGOの協働ゲーム
- ⑤ 企業、行政関係者との対話セッション
- ⑥ 団体ごとの具体的改善アクションの検討と発表でした。



真ん中に山口副会長  
(左から 鵜尾氏、重徳氏、参加者、  
山口、橋本氏、岩永氏、鈴木氏)

鵜尾氏による最初の講義は、参加者に予想通りの強烈なインパクトがあったようです。

①寄付者の分析の必要性 ②資金調達とは単なる資金集めではなく自分の組織のたな卸し行為であるとともに、そのプロセスがそのまま社会変革活動であるということ ③資金調達とはコミュニケーション戦略の見直しである ④寄付者は寄付がしたいこと ⑤感謝は7回すること など地球市民の会としてもしなければならないことを、ほかの団体の方も同じように感じていただきました。

また、企業・行政の方々とのトークセッションでは、NPOへ鋭い要望がたくさん上がりました。NGO側からすると、普段考えてこなかった事柄であり、これを知りえたのは大きな果実でした。例えば、

- 企業のメリットを考えずNPOはミッションだけで来るから付き合いえない。
- CSRを広報や人材育成としてNPOは提案するが、利潤を上げるためにそれがどう役立つのかを具体的に説明できない。気持ちはわかるが、そこを納得できる言葉で説明して欲しい。
- NPOは企業とつなぐコーディネーターが必要なのではないか。
- 協働は発展でなければやる意味がない。

一方行政側からは

- NPOは理念や夢を言葉だけで示そうとするが、行政としては目に見えるものとして見せてもらわなければ動きようがない。
- 行政は市民の立場に立たなければならないが、NPOが市民団体として公益を実現する組織とするのならば、行政の立場に立つ必要がある。でないと、協働は難しい。
- NPOは行政の協働の中で、NPO自身が自立していく姿を見せて欲しい。そうでないと、パートナーとして信頼できない。
- NPOはその活動で何がどう変わったか、どう良くなったのかを示すべきだ。行政にはNPOを判断する基準を持っていない。などでした。

その他には以下のような参加者の感想も出てきました。

- ・集中して思考・交流できた。・自分の活動を見直すことができた。・自分の団体に置きかえて、今日からどうするかを考え直したい。・自分が今、取り組むことが明確になったことが、有意義だった。それは、鵜尾さんのご経験と分析があってこそ可能なことで、書籍では決して学べないことであったため。

良いプログラムを地球市民の会は提供できました！

# スペシャリストによる、もうひとつのまなび 「世界一参加したい授業のお祭り」



おかげさまで

あまなび

大盛況でした!!



オープニングセレモニーの様子

学校では実現しにくい参加型プログラムを、その道のスペシャリストが実施! 計**33講座**がアバンセ全館で展開されました!! 佐賀県をはじめ、熊本や東京のNPO/NGO/CSO、企業、個人のスペシャリストが集ってくれました。アバンセでは入館者数**約2,700人**のカウント記録!! 参加者等からは、「来年はやらないんですか?」という声を多数いただきました。ご来場、ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました!

**実施日: 2009年3月8日(日)**

**共催・会場: アバンセ**

助成: (財)子どもゆめ基金、佐賀銀行社会福祉基金

↓プログラム一覧。☆印のものは、TPA実施の講座です。

階	部屋	9:00	10:30	12:00	13:00	14:00	15:00	16:30
1	1階北ロビー	オープニング セレモニー		バザー				
	展示ギャラリー	NPO/NGO はろーわーく						
	展示コーナー	華道と書道のコラボ ～春風にのって		作品展示				
2	音楽スタジオ			楽しい英語活動	演劇ゲーム	フィジカルコメディ、 チャップリンの世界へ		
3	和室			マイ箸づくり	ドバス	ドバス		
	美術工芸室			体験加型ゲーム 「ちがいを知って楽しもう」	自分を知って どんなことだろう?	“モノ”を生かす力は、人を救う		
	調理実習室	メキシコ&中国 胃文化交流会			はなまる☆ユウキ野菜 ～ゲーム編～ ☆	はなまる☆ユウキ野菜 ～実践編～ ☆		
4	第1研修室A			中国のハンセン病回復村 に学ぶ	より良い国際協力とはとは	悪魔の兵器、地雷		
	第1研修室B			『豊かさ』つなげよう	ユニセフ村の子どもたち	豊かに生きる		
	第2研修室A			命が終わるとき	聞いてよ私の国のこと、 教えてよ佐賀のこと	青年海外協力隊を 体験しよう!		
	第2研修室B			『字』が読めるって	『川』のワークショップ	NPO団体、国際協力団体に 就職するためには ☆		
	第3研修室A B	夢タマ子も横丁						
	OA研修室	カンボジアに『学校』を見に行こう						
	語学研修室			国際協力Q&A	国際理解教育・開発教育 入門講座	ケータイの一生～国際理解教育・ 開発教育の教材紹介		
屋外	アバンセ北出入口駐車場	屋台村						
	どんどんどんの森			ネイチャーゲームその1	おひさまとともだち ～ソーラーカフェで日向ぼっこ～	ネイチャーゲームその2		

特選

# 人気プログラムはこれだ!

参加者数の多かったプログラムBEST3を発表!



1位

## 夢タマ子ども横丁 / NPO法人夢の学校をつくる会

事前から申込みが殺到! レポーターやお医者さん、花屋さん、アロマコーディネーター等の職業体験ができるまたとない機会でした!(キッ○ニア東京に行かなくても満足!?)  
詳しいレポートは、夢学のページをご覧ください!



しよかななこ  
ごんな箸に

## マイ箸づくり / 木下 博和 氏

竹を使って自分だけのマイ箸をつくるのだ!  
とにかく子どもも大人も集中、熱中!  
マイ箸づくりを通して、ちよびり環境のことを考えることができたのではないのでしょうか。

2位



不思議な絵の具...  
うまく描けるかな?

3位

## ドパス / 国土防災技術株式会社

恐竜時代の贈り物! 数百年~数億年前の本物の粘土や土から誕生した絵の具、それがドパスです。  
古い時代に思いをはせながら、思い思いに描いていました!  
一番多かった絵はやっぱり恐竜かな?



# こんなのもあった!

# 貴重プログラム!

## 国際理解教育・開発教育入門講座 / 開発教育協会 (From 東京)

開発教育ってなんだろう? 聞いたことあるんだけど、興味あるんだけど...そんな疑問を一挙解決!  
開発教育協会事務局長、の中村さんが東京から直々に出向き、出前講座をしてくださいました。パーム油を題材に、身近なことと世界の問題のつながりについて、ロールプレイ式ワークショップが行われました。  
また、教育・学校関係者にはよだれものの、異文化理解、グローバル化、貧困、環境、人権、平和など様々なテーマの参加型学習教材教材の紹介、販売もありました。

~参加者の声~

- 開発教育に使うテクニックを実際体験できて良かった。(女性・教員)
- 初めてのワークショップで、開発教育について改めて考えさせられた。(男性・公務員)
- パーム油についての思い込みをくつがえされた様な気分。(男性・教員)

## おひさまともだち~ソーラーカフェで日向ぼっこ~ / 里山暮らしの学校 (From 熊本)

絵本「これはおひさま」の読み聞かせで、まずは子どもたちの心をしっかりキャッチ! 屋外でのゲーム「ストップ&ゴー」やビンゴゲーム「太陽と風」などの、アクティブな活動も行うことで、体感的に「自然」について子どもたちは意識できるようになりました☆

曇り空の中でも、自然の恵はあふれているんだなあ。

~参加者の声~

- 風のおい、木のおい、草のおいがわかった。
- 足の裏が生あたたかかった。
- 絵本の話をもっと最初にしたのが良かった。





武ちゃん語録 成功の秘訣は成功するまで続ける事!!

「夢の学校への思い」⑦

# 想いを形に、 それが「夢の学校」

理事  
古賀 大之



2年前、まだ私の息子が小学に上がる前のことです。ある日、武夫先生から「来年、ひろき（息子）は小学生やる？来年度から夢の学校が開校すっけん、やらんばいかんばい。」と言われ非常に悩んだ。家族会議を開く位、悩んだ。なぜ、こんなに悩まなければいけなかったのか。武夫先生が語られた「夢の学校」は本当に魅力的な学校だと思いましたし、もしも現実となったら是非子ども達を通わせたいとも考えましたが、実際にそういう話が出てくると不安で躊躇するのです。普通の小学校に通ったら出来る友達が、夢の学校でも出来るのだろうか？この子達の成長にとって大事な時期を夢の学校で過ごして、将来本当に良かったと思えるだろうか？まだ、開校もしていない学校へとなると不安ばかりが頭を過ぎりました。家族で出した結論は、取り合えずうちの子は普通の小学校に通わせようと言うものでした。さて、ここで頭を悩ませる事が一つ。私は幼少の頃より武夫先生の言う事は絶対！！言われた事には逆らえない様にプログラム（教育）？されてきたので、どうお断りするか本当に悩みました。しかし結局、夢の学校全日制が開校しなかった事によってこの悩みも解決する事になります。

その頃の私は、「夢の学校」にはとても魅力を感じていたし、実現したら素晴らしい事だとも思っていました。まだ武夫先生が思い描いていた「夢の学校」というものをちゃんと理解していなかったと思います。

夢の学校をつくる会理事1年目、今年は何にも、本当に何にもお手伝いらしい事は一つ出来ずに1年が終わりました。

お役に立てなかった理由はただ一つ。私自身が「夢の学校」をよく理解出来ていなかったのが原因です。しかし、少しずつですが、武夫先生が思い描いて来られた「夢の学校」というものが理解出来始めて来たところではあります。

ただ、まだ夢の学校をつくる会の為に私に何が出来るのか、夢の学校をつくるお手伝いが私に出来るのか、まだ分かりません。

「夢の学校」とは、武夫先生の想い、それを取り巻く方々の想いが形となって出来るものだと思います。それが、未来の子供達の将来、日本の将来、世界の将来、そして地球の将来に繋がっていくものだと思います。今後、理事として私がやるべき事は「夢の学校」に対し深い想いを描き、そしてそれを形にする努力をすることだと思います。そして、「夢の学校」へのそれぞれの想いの灯火を消さない様に皆で協力して頑張りたいと思います。

「私の考える教育とは？」⑦

# 「できない」から頑張ること、 「できない」けど頑張ることの違い

小松原 修



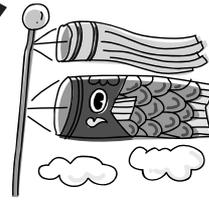
私の職場は、障害のある子どもたちの学校です。一般に、障害のある子どもたちの学校というと、みんなが、「できない」ことに果敢に挑戦して、「できる」ように頑張る姿をイメージされることが多いと思います。例えば、歩くことが難しいから歩く練習を一生懸命していたりとか、うまく自分の気持ちを伝えることが難しいから手話を一生懸命覚えたりとか。「障害がある」ということで、はじめから「できない」ことが当たり前という認識が一般的にはあるのかもしれませんが。

この仕事に就いてもう15年になります。どのくらい「できて」どのくらい「できない」のか、この見極めがこの仕事ではとても重要です。障害ゆえに「できない」ことが「できる」ようになるというのは実際にはそう多くはありません。「できない」から頑張る、けど、やっぱり「できない」ところは「できない」。だから、私たちは「援助」するわけです。「援助」されることは、決して恥ずかしいことではありません。むしろ正直な生き方だと思います。私は、障害のある人が、「できない」ことを「できない」なりに、不器用だけれど「やってみる」という姿勢を示してくれることで、自分にも相手にも正直に生きるということを教えてもらっています。

「できない」ことは恥ずかしいことではなく、「できる」のに「やらない」「できないふりをする」ということはとても恥ずかしいことだと教えてもらいました。「できない」から頑張るのは当たり前の話です。「できない」けど頑張ることってなかなかできることではありません。苦手なことを克服することよりも克服しようとしている姿勢を大いに褒めてあげられる、そんな親であり、教育家でありたいと思います。

# 夢!情熱!感動!

OB, OG, 卒業生は宝物です vol.6



15年前...今も全く変わりません

## 古賀道場「ようこそ先輩シリーズ」第6弾

このシリーズも6回目となり、そろそろ新たなものに・・・いえいえまだまだ全国、海外に根を張り、遅く生きるOB、OGをもっと知って頂きたいと思います。前々回の松尾君と同様、全国大会団体戦で武夫先生に最後の恩返しを果たした中溝君。大きな身体に細やかな心配りで、皆から愛されている「だいちゃん」の登場です。

## 恩師と自分

### 中溝 大介

古賀先生との出会いは、小学二年生の時でした。当時、姉が通い始めた英語の教室が古賀英語道場だったのです。英語道場から帰ってくる、「今日も、楽しかったよ」と満面の笑みで父や母に伝えるその姿をみて、「俺も行きたい!」と親に訴え、英語道場に連れていかけてもらおうようになったのがきっかけです。そこからは、あれよあれよという間に空手も同じ時期から始めることになりました。

古賀先生との思い出や、今の自分を振り返ってみるとどちらかというと空手を通じて受けた影響が大きいので、ここでそれを中心に書かせて頂きます。

古賀武夫先生との出会いから今まで、自分の中の古賀武夫という存在は、善くも悪くも細胞レベルにまで入り込んでいっているように思う。普段はあまり気にしてはいないが・・・

そして、自分が相対している古賀武夫という存在に、自分自身ができるように立ち回り接していたかということ振り返ると、親に反

抗している子どものようにいつも戦いを挑んでいたように思う。それは、道場生をまとめる時・空手の試合の時・新しい進路を決める時等々、親に対する意識・態度と同じように、認めてもらいたい・納得させてやるうっていう気持ちだった。また、入門当時から共にやってきた仲間も今はそんな姿をみて、「ジャイアン」と呼ぶ。これもまた嬉しいことである。

今から振り返ってみると、思い出はやまのようにあり、本当に生活の一部だったので瞬間的になにかを教わったという記憶はほとんどないが、今の生活で大切にしていることは、『思いやり』と『軸』である。生活の大部分が会社生活となっている今も、この二つの言葉を忘れないようにしている。古賀先生から教えてもらったことは、学校の授業とは違うので明確にはないが、主にこの二つを十数年掛けて教えてもらった。

ただ、先生に常に勝負を挑んでいたような自分だったが、平成十九年夏の全国大会の最後に先生が

見せた「真つ赤な両目からでる汗」を見て、なんだか肩の荷がふっとおろるような気がした。土台を形成してくれた両親、その上に家を立ててくれた古賀先生。私の人生に大きな影響を、そしてたくさんの事を教え考えさせてくれた、そんな存在です。



### 中溝 大介 (なかみぞ だいすけ) 古賀英語道場第11期生

佐賀商業高 駒沢大学卒。

入門時から、明るく・ひょうきんな性格と頼りがいのある風貌で、いつも大ちゃんの周りには楽しい笑い声が溢れていました。

ご家庭のご協力も並大抵でなく、「古賀道場に近い所」と近所のマンションに引っ越してこられた程!

現在は、在京の大手車関係のメーカーで、エネルギーに活躍中です。

次号も、宝箱をあけて素晴らしいOB・OGに登場して頂く予定です。ご期待下さい!

# 協力者一覽

地球市民の会 12~3月のご支援の皆様!!(本当に有難うございます)

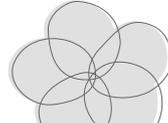
正 会 員	団 体 会 員	購 読 会 員	ポ ー ゲ ウ 校	ク ー キ ャ オ 中 学 校		
音成日佐男 北原壽豊 古賀智津子 古賀友大 古賀洋子 堤加奈子 徳光清孝 永倉遵五郎 中溝澄子 夏秋葉子	野口翔平 畑恵子 濱田英樹 福井丈一郎 古川昌宏 前田伸二 牧瀬弓子 宮島町子 本村満江 山口廣	佐賀銀行 相島博文 中原憲義 <b>学 生 会 員</b> 片山ゆう子 古賀慈猛 樋口七菜 藤木祐太 <b>寄 付</b> 西村尚子 山下雄司 中溝澄子 匿名 <b>維 持 会 員</b> 古賀洋子 土井敏弘	宮島町子 寶泉正美 豆田美穂子 福田文子 松尾成子 古賀信子 宮嶋トミエ 松林久美子 吉田純子 吉田純子 原田典子 山下陽子	眞崎健次郎 北原壽豊 小園拓馬 松瀬直美 平岩佳名子 西村賢二 石川祥子 納江幸利 愛野良治 福井丈一郎 野田和彦 樋口博之	内田夕美 松尾慶子 山下雄司 平野京子 吉井学 梅崎光行 中島文子 馬場龍之介 中園めぐみ 吉田純子 樋口靖子 蒲生正裕 野口智代 杉本奈巳 永田康子 小園拓馬 山田房子 武藤鼓	南里玲子 円城寺久好 大島佐江子 田久保克明 岩永公代 福本淑子 倉富博美 松瀬直美 納江幸利 江頭泰子 的野直喜 前田綾子 徳永千恵 秦智美 愛野良治 深川明子 阿部礼子 江口典子 佐藤隆之 千住友二 那須修一 中原憲義 澤山忠澄 光石真由美 福井丈一郎 新田一雄 藤井エミ子 光石真由美

夢の学校をつくる会 12~3月のご支援の皆様!!(本当に有難うございます)

こ 協 賛	世界一参加したい授業のお祭り協力者
上田光俊 L. D. D. Project 草場整形外科 古賀大之 古賀英語道場 坂本広樹 田村将策 富永正樹 中島義彦 中溝澄子	西山正廣 ニューポーン 原健三 前田星萌 満岡聰 峰松輝文 宮地信文 森永太 森本孝子 匿名

## シンヨダヤ校

矢新教子



## ク ー キ ャ オ 高 校

武下順一 諸富公昭 萩原喜代子 梅崎美佐子 尊田百合子 古賀信子 松林久美子 森田ユカ	円城寺久好 納江幸利 江頭泰子 松枝和代 北村尚道 的野直喜 千住友二
--	---

※順不同で掲載させていただいております。※大変失礼ですが、敬称は省略させていただいております。いつも本当にありがとうございます!!

## ~行くひと 来るひと~

離 職

杉山 史恵

6ページ「ミャンマー通信」でご挨拶差し上げましたが、2009年3月をもちまして地球市民の会を離れることとなりました。4月後半からはミャンマー連邦の旧首都ヤンゴンに居りますので、ミャンマーのより良い明日のために今後もお手伝いができると思います。TPAスタジオツアー等の際には、是非お会いしましょう!

着 任

高柳 かほる

初めまして!今年の3月末から縁あって一緒に働かせていただくことになりました。“年”はちょっといってますが、フレッシュウーマン気分で頑張っています。この事務局は元気が充電されるありがた~い職場です。皆さんも是非遊びに来てください!  
(私は月・水・金曜日にいます)



## 古賀先生、最後の願い 「いのちのまつりのうた」CD完成!!

古賀英語道場のオリジナル英語ミュージカル「いのちのまつり」の挿入歌「いのちのまつりのうた」のCD(日本語版)がこの程完成しました。CD化は、古賀先生の最後の願いでした。どのいのちも、だれのいのちもたいせつないのち。是非、多くの皆様に聞いて頂ければ幸いです。

「いのちのまつりのうた」  
価 格 : 1,000 円 (税込)

申込先: 古賀英語道場  
TEL 0952 - 25 - 2295  
FAX 0952 - 26 - 4922  
Eメール kdes@po.saganet.ne.jp

お支払い方法:  
郵便振込書をCDと一緒に送りたいします。

挿入曲 ①いのちのまつりのうた  
②ごせんぞさまかぞえうた  
歌 古賀英語道場の子ども達  
ジャケットデザイン 古賀慈猛



# 4~8月のお知らせ

●は地球市民の会、♥は古賀道場  
★は夢の学校の行事です

## ●第8回会員総会開催

5月23日(土)13時半～  
佐賀新聞社本社5階大ホール  
☆会員総会  
☆特別イベント～「農」と「地球市民運動」  
基調講演+パネルディスカッション  
☆大懇親会!  
別紙詳細をご覧ください!

スケジュールにチェックをお願いします!  
今回も面白いこと間違いなし!  
ご都合がつかない会員さんは委任状をお送りください!

## ●会費納入のお願いの予告

5月中旬に会費納入のお願いをします。  
郵便局への振込用紙以外に  
コンビニエンスストアからのお支払、  
クレジットカードによるお支払いが  
できるように致しました。  
ご協力お願いいたします。



お願いします。  
ぺこり!

## ●新しいリーフレットできました。 ～会員増強月間～

全面改定版の地球市民の会リーフレットが  
完成しました。今月号では別紙のとおり会員  
増強キャンペーンを実施します。  
会員さんにはリーフレットを2部お送りさせ  
ていただいています。  
一部をお知り合いにお渡しください!

感動の嵐、  
必至!!!

## ●ホストファミリー募集!

タイ、ミャンマー、スリランカ、韓国の高校生が  
日本にやってきます!  
ホームステイを予定しています。  
8月1日(土)～8月12日(水)  
別紙詳細をご覧ください!

## ●定額給付金の寄付を!

日本の景気を良くするためのお金ですが、世界のために、日本のために、  
使ってもいいとお考えの方は地球市民の会にご寄付ください!

①ミャンマー教育基金 ②タイ教育基金 ③事務局支援金

振込先は

●郵便振替 01790-3-26351 特定非営利活動法人地球市民の会

銀行振り込みは

●佐賀銀行本店 1506171

特定非営利活動法人地球市民の会 理事長 山下雄司

●ゆうちょ銀行

店番:七七八 普通預金 0439708

特定非営利活動法人地球市民の会

## ♥空手春合宿

5月3日～5日  
於:古賀道場、北山少年自然の家

## ★理事会・総会

5月16日(土)

## ★田植えキャンプ(富士町)

5月16日(土)～17日(日)

## ♥第24回英語スピーチ フェスティバル

7月末

## ★草いちご摘み(富士町)

5月31日(日)

## ★自然体験指導者養成講座

6月上旬予定

## ★キャンドルナイト

6月21日(日)

## ★昆虫観察キャンプ(田平)

6月27日(土)～28日(日)

## ★蛍観察キャンプ(富士町)

7月4日(土)～5日(日)

## ★子どもキャンプ

7月25日(土)～26日(日)



スタッフの  
ひとこと

## 長いお休み、何したい?

今年のゴールデンウィークは6日分有給を使えば、4月25日から5月10日まで16日間休めるという、怒涛の黄金週間! そのような休みの取り方は無理としても、「もしそれだけ休みが取れたとしたら、何します?」という夢のまた夢を話します!

## 地球市民の会

- 大野 博之** もし、家族がみんな一緒に休めるなら、地中海クラブでリゾート行きたいなあ。で、私一人だけならば、大量の本とコンピュータを温泉地に持ち込んで(あ、お酒も)、知識の蓄積がしたいなあ。でなければ、瞑想センターか断食道場でもいいかあ。(この場合お酒は抜きね)
- 畑 恵子** やっぱチャリンこツーリング! もちろんテントと寝袋を積んで、場所は...北海道が信州か島がいいなあ。
- 高柳かほる** わたしも 断食道場で腸も頭もすっきり解毒してきた〜!!...長年の願望。それから、家族みんなでキャンプや温泉地を連泊しながらノンビリ空を眺めたいです。
- 西村 尚子** 庭いじり...でしょうねえ。今は何となく土に触れたい気分です...
- 納富ハヤ子** 念願の中歐3都(ウィーン、プラハ、ブダペスト)めぐりをしたい。だけど、最近、日付変更線を越えて旅をする自信がなくて...。やはり、ゆっくり日本の名所めぐりかなー。

## 古賀英語道場・空手道場

- 古賀 洋子** 目いっぱい船の旅です。なんだか、すぐにでも、16日でも 何日でも休めるというか...フリーになれるというか...。あとは、欠かさず買っている「宝くじ」次第ってところです。
- 山下 春美** 非日常に身を置く。もちろん食事は作らない。少し遠出するが、家に帰ってきた途端「あーやっぱり家が一番」と言う。
- 古賀 大之** まずは4日間一人でゴルフトーナメントに挑戦して、2日間家でじーっとして、3日間京都に時代劇ツアーに行き、2日間家でじーっとして、暇つぶしに4日間位ハワイにでも行って、2日間家でじーっとして、最後の日はYou-Metaタウンで家族サービスでもしようかな。ちがうか!!
- 青柳 達也** あえて国内旅行です。沖縄から北海道まで日本縦断!!でも、ワイフは16日間も休めないですね。そういえば...まだ新婚旅行に行ってません!!

## 夢の学校をつくる会

- 吉村 薫** ☺☺☺ Zzzz~, Zzzz~, Zzzz~, これしかない!!
- 相良 伸武** 無人島で気の合う仲間とゆっくりした時間を楽しむ。豊かで壮大な美しい自然に囲まれ、やりたい事をやる。酒とサッカーボールだけは必需品やね!

## 地球市民ネットワーク

■北海道地球市民の会  
〒061-3214 北海道石狩市花川北4条2-197  
会長/阿部功 事務局長/新保知博  
TEL・FAX: 0133-74-1296

■地球市民の会ふくしま  
〒963-8681 福島県郡山市喜久田町卸1丁目120-1  
(榊石黒)  
会長/事務局担当 石黒秀司  
TEL: 024-959-6426  
FAX: 024-959-6577

■地球市民の会東京  
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-2-13  
会長/有澤正典 事務局長/佐藤敏行  
TEL: 03-3662-0331  
FAX: 03-3662-0400  
E-Mail: arisawa@nun.co.jp

■地球市民ACTかながわ  
〒231-0821 神奈川県横浜市中区本牧原3-1-203  
会長/近田真知子 事務局担当/伊吾田善行  
TEL・FAX: 045-622-9661  
E-Mail: port@tpak.org

■地球市民の会さく  
〒501-6241 岐阜県羽島市竹鼻579-1  
竹花園内  
会長/森幹治 事務局担当/平井八重子  
TEL: 058-391-5415  
FAX: 058-391-8600

■地球市民みえの会  
〒514-0027 三重県津市大門7-15津センターバース3F  
津市民活動センター内  
会長/伊藤洋之 事務局担当/秋葉幸信  
TEL: 059-226-5700  
FAX: 059-224-8911  
E-Mail: miemiemiemie21@hotmail.com

■地球市民の会京都  
〒605-0873 京都市東山区下島町484  
会長/宮川尚子 事務局担当/西田一貴

■神戸/戸有頂天倶楽部  
〒657-0045 神戸市灘区下河原通り3丁目4-3  
会長/松元隆司 事務局担当/大西陽治

■愛媛地球市民の会  
〒790-1121 愛媛県松山市中野町甲640  
はばたき授産圏内  
会長/篠崎和夫 事務局担当/丹生谷宗久  
TEL: 089-963-3772  
FAX: 089-963-3795

■北九州地球市民の会  
〒802-0006 福岡県北九州市小倉北区魚町1-5-14  
中央会館2F  
会長/河野一郎 事務局担当/大山研児  
TEL: 093-521-8181  
FAX: 093-551-2296

■地球市民の会福岡  
〒814-0164 福岡県福岡市早良区賀茂2丁目30-4  
(榊増屋内)  
会長/増田誠司 事務局担当/西村和寿  
TEL: 092-801-5888  
FAX: 092-801-5789

■(特活) コミネット協会  
〒861-8039 熊本市長嶺南2丁目5-31  
会長/池永憲貞 事務局担当/富田、田中  
TEL・FAX: 096-387-7139

■古賀英語・空手道場  
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10  
TEL: 0952-25-2295  
FAX: 0952-26-4922

■夢の学校をつくる会  
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10  
TEL: 0952-24-6262  
FAX: 0952-26-4922

## ネットワーク・テラ 春号 VOL.134

発行/  
特定非営利活動法人 地球市民の会  
〒840-0822  
佐賀県佐賀市高木町3-10  
ホームページ: http://tpa.nk-i.net  
E-mail: office@tpa.nk-i.net  
TEL: 0952-24-3334  
FAX: 0952-24-7321  
発行日/2009年4月30日  
発行人/佐藤昭二  
編集人/地球市民の会 事務局  
印刷/株式会社サガプリンティング